

あとがき

東京大学における人文地理学関係の専任教官は、教養学部前期課程（一般教育）では人文地理学部会、同後期課程（専門教育）では広域科学科の人文地理分科、そして大学院では総合文化研究科の広域科学専攻広域システム科学系に所属し、理学系研究科の地理学専攻を兼担している。しかし前期課程の人文地理学部会と後期課程の人文地理分科の構成教官は同一であり、大学院でも両研究科における人文地理学分野の教育は実質的に統合されているので、東京大学における人文地理学の研究・教育を事実上一元的に担う「人文地理学教室」として活動を続けている。

前号が発行された1995年3月以来、教室の陣容が大きく変わった。1996年春には須貝俊彦助手が転出して後任に田原裕子助手を迎え、同年秋には荒井良雄助教授が教授に、冬には永田淳嗣助手が助教授に、それぞれ昇任した。そして1997年春には田辺裕教授が停年退官され、松原宏助教授を迎えた。こうして現在は、教授2名（谷内達・荒井良雄）、助教授2名（松原宏・永田淳嗣）、助手（田原裕子）、教室事務（渋谷桂子）、図書事務（亀井順子）が人文地理学教室を構成し、学外・学内の非常勤講師の先生方のご協力を得て、人文地理学の研究・教育のために活動している。また田辺裕教授が人文科学科長・教室主任（1995年度）および広域システム科学系主任・広域科学科長・分科主任（1996年度）、谷内が分科主任（1995年度）および部会主任（1996～98年度）、荒井良雄教授が広域科学科長・分科主任（1997年度）および分科主任（1998年度）を勤めたほか、各教官が学内のさまざまな職務を担ってきている。

1995年7月には、当教室としては初めて人文地理学会特別例会の開催校となり、研究発表（駒場キャンパス）およびエクスカーション（横浜）の準備と実施にあたった。そして1997年5月には、田辺裕教授の退官記念行事も兼ねて、人文地理学教室40周年記念シンポジウムを開催し、記念誌『人文地理学教室の40年』を発行した。

本誌の再出発にあたり、これまでに各位から当教室に賜った御厚誼に厚く御礼申し上げるとともに、今後とも引き続き御指導・御協力を賜るようお願い申し上げます次第である。最後になったが編集作業にご協力を頂いた中村広幸氏に謝意を表して結びとする。

1999年春 谷内 達